

あいむ柏崎

— 女と男 共につくる希望の未来 —

令和5(2023)年3月3日

第8号

発行 | かしわざき
男女共同参画推進市民会議

寄稿



「若者に選ばれる企業、地域になるための働き方改革」

たかの社会保険労務士事務所 代表 高野 真規さん

私が小学生の頃に流れていた「24時間戦えますか」のCM。強烈なインパクトのあるキャッチコピーなので、今もお働き方改革の話題の引き合いに出されます。当時はバブル全盛の時代でしたが、現在は自分の時間を大切にしたり、時間の使い方に質を求める人が増えてきました。

日本では、1990年代半ばからは、若者と高齢者の人口構造が逆転し、高齢化が加速しています。そして、若者の人口ボリュームが大きかった高度成長期の大量生産大量消費の時代から、高付加価値のある商品やサービスを提供する時代へシフトしています。高付加価値のある商品やサービスを生むためには、価値観の異なる多様な人材のアイデアと短い時間で生産性高く働くことが必要であり、働き方を改革すること、ダイバーシティ（多様性）やDXなどが経済発展のカギと言われています。

毎年、子育て世代の男性向けに仕事と育児の両立に関する講座を行っていますが、彼らの多くは率先して育児や家事を行っている様子が見えます。一方で、仕事では上司の育児や家事に関する理解が得られず、世代間ギャップに辛い思いをしている方もいます。

若者の採用に苦労している企業が多いと思いますが、生産性本部の調査によると新卒男性の約8割が育児休業を取得したいと回答しており、若者の人材確保のためには「男性の育児休業」など、働きやすい職場環境を提供できるかどうか大きなポイントとなります。

令和4年の育児介護休業法の改正は、主に男性の育児休業を促進することを目的としており、妻の出産直後の期間における育児休業「産後パパ育休」が創設されました。出産直後は母体保護のため産後8週間は安静にしていなければならない期間ですが、不慣れな育児と不眠、ホルモンバランスの影響などで母親の10人に1人が産後うつになると言われています。この時期の妻を守るのには一番近くにいる夫です。子どもが誕生したら夫は「もっとがんばって働く」のではなく、「妻と子どもを守ることを優先する」ということを職場全体も理解をすることが大切だと思います。

育児だけでなく、介護、病気、不妊治療、学び、趣味など、一人一人の人生が充実し、職場で最大限のパフォーマンスが発揮できるような環境を取り入れられるかが持続可能な企業経営、地域の発展につながると思います。是非、若者に選ばれる企業、地域になるために中長期的な視点で働きやすい職場環境づくりを進めていきましょう。

柏崎市議会総務常任委員の皆さんと意見交換会

「産み育てやすいまち柏崎へ！」

令和4(2022)年8月19日(金) 会場/市役所多目的室
出席者/総務常任委員7人 かしわざき男女共同参画推進市民会議8人

昨年8月、柏崎市議会総務常任委員会の求めに応じて委員の皆さんと意見交換を行いました。

話し合いでは、「出産・育児休業時の補償の実態」と「男性の育児休業取得が進まないことの課題」を共有しました。

委員の皆さんからは、この課題解決に向けて施策を提言し、市民とともに「産み育てやすいまちづくり」を進めていきたいと心強いお言葉をいただきました。

【育児・休業時の補償】

- ・パートさんの中には社会保険・雇用保険に加入できず「育児休業給付金」を受給できない方がいる。
- ・安心して産み、育てられる経済的な支援が必要。

【男性の育児休業】

- ・育児休業が取りやすい職場環境の整備のために働き方改革が必要。
- ・育児休業取得者を支えるだけでなく、周りも働きがいを感じられる業務改善と意識改革を同時に進めていくことが必要。
- ・意欲のある企業、特に小規模企業のサポートが必要。



私たちは柏崎の「ハッピー・パートナー企業」です



新潟県では、男女が共に働きやすく、仕事と家庭等の両立、女性従業員の育成や登用などに積極的に取り組む企業を「ハッピー・パートナー企業」として支援しています。

柏崎市ホームページ
ハッピー・パートナー
企業募集



子育てサポート企業として「プラチナくるみん」の認定を取得

株式会社ブルボン 駅前1丁目3-1

当社は、食の提供と「心と体の健康づくり」をテーマに、持続可能な未来社会の実現に向けた様々な事業活動に取り組んでいます。その中で、仕事と生活と学びの調和により次世代を担う子どもたちの健やかな成長を支援することが、企業の社会的責任の一つであるとの認識のもと、出産・育児や介護にかかる制度の整備、メンタルヘルス対策やキャリア形成などの支援を行ってまいりました。2017年には次世代育成支援対策推進法に基づく子育てサポート企業として「くるみん」の認定を取得し、より水準の高い取り組みを目指して活動を続けてまいりました。その結果、厚生労働省より2022年8月30日付で「プラチナくるみん」の認定を頂きました。

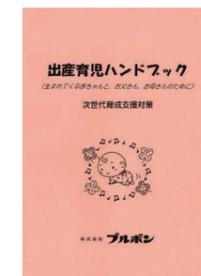


代表取締役社長
吉田 康さん

当社支援制度の特徴として、全社員を対象とした育児休業を子どもが3歳に達した日以降最初の4月給与締日まで取得を可能としているほか、ノー残業デーの実施や育児と仕事を両立するための各種制度、看護休暇を小学校3年生終了時まで取得できることなどがあります。また、2022年3月末までの2か年の行動計画では、

- ① 育児休業の取得率を向上させることを目標とし、「出産育児ハンドブック」やガイドライン、掲示物を作成し、対象者の面談実施や段階に応じて社内・社外の制度の情報提供を行った結果、男性社員69%、女性社員97%となり、目標を達成しました。
- ② 男性の育児目的休暇の利用促進や、社内周知を図り、配偶者出産時の負担軽減として、配偶者出産休暇の利用を促進しています。配偶者が出産予定の男性社員に対し、本人、上司、人事労務担当者での面談を行い、育児参加・休業が可能となるように制度を周知し、育児休業・配偶者出産休暇の取得を促す取り組みを実施しました。
- ③ 年次有給休暇の取得計画作成を全社に依頼し、全社目標を掲示、管理職研修等で呼びかけたことで有給取得の目標を達成しました。

今後も、社員がやりがいを持ち、仕事と生活とのバランスをとりながら多様な能力を最大限発揮できる職場環境の整備に継続して取り組んでまいります。また、女性や子育て中の社員を含めすべての社員が長く働き続け、活躍できる企業であり続けることを通して、持続可能な将来社会をデザインしてまいります。



出産育児ハンドブック

～ままだって～ 「お母さんとチャレンジDIY」

令和4年10月1日(土) 午前9時15分～10時
会場/株式会社阿部建設 社屋

阿部建設さんのご協力により、今年もままだって「お母さんとチャレンジDIY」を開催しました。

昨年同様、大工道具を使って椅子と花台のどちらかを作るDIYに7組の親子がチャレンジしました。

「ままだって」できる。今回は45分という短い時間の中、ドリルで穴をあけ、釘をそこに差し込むという作業。阿部建設の大工さんのご指導のもと、なかなか難しい作業でした。

一組の方の感想をいただきました。

親子でDIYに参加し、子どもサイズの立派な椅子が出来上がりました。講師の方からは丁寧に分かりやすく教えていただきました。初めて電動工具を使ったのでドキドキしましたが、次第にコツもつかめ楽しくなりました。親子で思い出に残る良い体験ができました。ありがとうございました。



～ばばだって～ 「お父さんと作るクリスマスケーキ」

令和4年12月3日(土) 午前10時～12時
会場/市民プラザ料理実習室

講師に高橋みどりさんをお招きし、感染症対策を施した上で開催。6組12名の参加(応募33組)。第一関門の円形の型紙作成から始まり、苺を載せる位置を父子で話し合いながら悪戦苦闘する姿もほほえましく、とても楽しそうでした。最後は、素晴らしい(ブラボー)クリスマスケーキが完成し、箱に納めて終了となりました。

参加者談話をご紹介します。

「移住してきました。父子で作る時間を共有でき、ふれあいイベントがある地域で良かった。感謝です。」

「最近、巣ごもりや、リモートワークにより、家にいる時間が増えました。ひとつでも成功体験を積みみたいと思い参加しました。」

「ケーキ作りそっこのけで、『今日がデビュー日だ!』と、子どもが洗い物にハマりました。これから手に優しい洗剤とスポンジを求めて帰りたいたいと思います。」



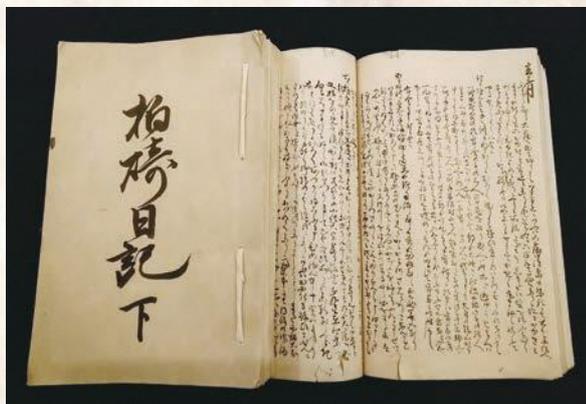
「柏崎日記」にみる 江戸時代の子育て

幕末期、柏崎陣屋詰めとなった桑名藩士渡部勝之助の記した「柏崎日記」は、下級武士の職務や暮らしぶりを伝える資料として知られています。その中には、妻お菊の出産時の記録もあります。

お菊の陣痛が始まると、勝之助は畳をはずしたり藁を持ってきたりと大騒ぎして産床をこしらえ、「取り上げ婆さん」や近所の女性たちがかけつけます。「取り上げ婆さん」は産後毎日来て赤ちゃんを湯につかわせ、おむつも洗ってくれました。

お乳が十分に出来るまでは、陣屋内の女性たちが交替で、夜は泊りがけでお乳を飲ませに来てくれます。他人の乳を与える「もらい乳」という習慣があったのです。最初のお乳は異性の子を産んだ女性の乳をもらうと丈夫に育つ、縁が早いなどといわれ、ほかの家で出産があったとき、お菊に乳をつけてくれと頼まれることもありました。

勝之助はお乳がよく出るようにと、金頭の汁やお餅をお菊にせつせと食べさせました。お菊に頼まれて胞姫さんにも参詣しています。米一合を持って行き、お供えしてある米と引き替え、それを宮の前の水（弁慶の清水）で粥に炊いて食べたところ、少しお乳が出るようになったとか。



「柏崎日記」(複製) 柏崎市立博物館所蔵

また、驚いたことに、産後二十日たった頃、勝之助は赤ちゃんを家の前へ捨ててしまいます。もっとも、あらかじめお向かいさんに拾ってもらおうよう頼んでおき、すぐに迎えに行きます。子どもが病弱であったり、親の厄年に生まれたりすると、捨て子をして拾ってもらおう習慣がありました。この年、勝之助は数え42歳の厄年でした。

子どもの成長、節目の祝い、日々の親子の会話などが日記には事細かに記されています。お菊が病弱であったせいもあり、勝之助が家事や子育てに積極的に関わっていたことがうかがえます

(協力/市立博物館 早川 美奈子さん)

会員募集!

かしわざき男女共同参画推進市民会議

女性も男性も生き生きと輝く社会を目指して、一緒に活動して下さる方、支援して下さる方を募集!

活動内容

- ・学習会・研修会(労働、人権、まちづくりなど)
- ・イベント(子育て支援、父親の家事・育児など)
- ・啓発事業(公開講座会など)
- ・広報誌発行(あいむ柏崎/年2回)

年会費/1,000円(個人会員)
3,000円(法人・団体会員)

<問い合わせ先・申込先>

事務局: 柏崎市人権啓発・男女共同参画室
〒945-8511 柏崎市日石町2番1号
TEL 0257-20-7605 FAX 0257-22-5904
Eメール: danjo@city.kashiwazaki.lg.jp

あしがき

昨年もコロナに振り回された1年でした。私の職場でも、ワクチン接種をしても感染する事があり、何かと大変な面も多くあったように思います。そして、冬は雪の心配もありました。大雪で道の除雪が追いつかず、仕事に行けない人もいました。私もその中の一人です。雪かきによる死亡事故も多く発生しました。そういう時こそ、皆で共に助け合う事が、大切なのではないでしょうか。今年は、コロナが収まり自然災害のない、良い年になる事を願うばかりです。

(Y・N)

こちらからご覧いただけます

— 柏崎市ホームページ —

市民会議
会員募集



あいむ柏崎
バックナンバー

